

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(6月27日～7月2日)

2022年8月22日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●外貨建て国債のベラルーシ・ルーブル(BYN)での償還の決定(6/28)

●ラヴロフ露外務大臣がベラルーシを訪問、ルカシェンコ大統領、マケイ外務大臣と会談(6/30)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ラヴロフ露外務大臣のベラルーシ訪問

(1)ルカシェンコ大統領との会談

・ルカシェンコ大統領は、ベラルーシとロシアが2つの独立国家による強固な関係を構築しており、世界が羨んでいる旨指摘し、ベラルーシがロシアから、独立した主権国家に必要な全てのものを受け取っている旨強調。

・大統領は、カーニングラードとベラルーシの間に位置するスヴァウキ回廊に言及した上で、ベラルーシもロシアも同回廊について話しておらず、戦争も緊張もない旨強調。

・大統領は、北大西洋条約機構(NATO)軍機による核兵器運用訓練を非難した上で、核の応酬にならないよう、対称する行動を控えている旨述べ、核兵器不拡散条約(NPT)違反を想定して準備しておかなければならない旨付言。

(2)マケイ外務大臣との両国外相会談

・安全保障、金融・経済の安定、二国間協力を巡る諸問題、各種統合機構を通じた連携強化、国際機構における協調行動と相互支持等につき協議。

・外交関係樹立30周年に寄せた両国外務大臣の共同声明を採択。

(6月30日 大統領府、外務省)

●カナダ独立記念日に寄せた祝電

祝電は要旨以下のとおり。

・人的交流と友好は制裁よりも強く、政治家に正常な対話へと戻るよう強いるものとなる。

・外交関係樹立後の30年間、政治的状況はさておき、複数の両国共同プロジェクトが実施されてきた。

・チョルノービリ(露:チェルノブイリ)原発事故の後、ご

く普通のカナダの人々が、何百人ものベラルーシの子どもたちの保養のため、ベラルーシに支援の手を差し伸べた。

(7月1日 大統領府)

●第9回ベラルーシ・ロシア地域フォーラムの開催(於:グロドノ)

ルカシェンコ大統領とプーチン露大統領はビデオ演説を行った。

(1)ルカシェンコ大統領の発言

・西の隣国がベラルーシ国境に北大西洋条約機構(NATO)の軍部隊をけしかけている中であって、我々は至って建設的なイニシアチブに取り組んでいる。

・ベラルーシはロシア経済の特に重要な部分の近代化改修に参加する用意がある。

(2)プーチン露大統領の発言

・集团的西側諸国による前例のない圧力により、ロシアとベラルーシは統合プロセスの加速を余儀なくされている。

(7月1日 BPN)

●ベラルーシ独立記念日(7月3日)に寄せた祝賀会
大統領の演説は要旨以下のとおり。

・ベラルーシをウクライナでの戦争に引きずり込もうとする試みがあるが、ベラルーシのただの一兵たりともウクライナ領で戦ってなどおらず、ベラルーシはウクライナで戦うことなど追求していない。

・3日ほど前、ベラルーシ領内の軍事施設に対し、ウクライナ軍からミサイル攻撃があったが、全弾を迎撃。

・ベラルーシが参戦するのは、ベラルーシ領が侵犯されたり、ベラルーシ国民が殺害されたりする場合に限られる。

・1 か月ほど前、ベラルーシの軍部隊に、西側諸国の首都の意思決定の中心を照準に入れておくよう下命。
・我々は何者をも脅迫していない。(カリーニングラードとベラルーシの間に位置する)スヴァウキ回廊に攻め入ることなど望んでいない。
・ポーランドが米国に対し、ポーランドに米国の核兵器を配備するよう要求したことを受け、6 月 25 日のプーチン露大統領との会談において、一昼夜のうちに対称する措置を講じられるようにするため、準備しておく必要があるとの結論に至った。

(7 月 2 日 大統領府)

【外交】

●ペルツォフ情報大臣とリポフ露連邦通信・情報技術・マスメディア分野監督庁(ロスコムナドゾル)長官の会談(於:モスクワ)

・マスメディアの活動の規制における現代の傾向と、インターネット空間における法的関係につき協議。
・情報省と「ロスコムナドゾル」の所轄分野における規制活動の実施の有効性を検討。

(6 月 27 日 情報省)

●ベラルーシ独立記念日(7 月 3 日)に寄せた記念行事の開催

マケイ外務大臣は要旨以下を述べた。
・煽動や、思いつきで不法な制裁は、地域レベルでも世界レベルでも、状況の正常化に寄与することなどあり得ず、それを促進したりしないことは明白。
・橋を燃やしてしまうことは容易だが、橋を架けるには、時間の点でも必要とされるリソースの点でも、はるかに高くつく。だからこそ、我々はより賢明であり続け、常に最初に手を差し伸べる。

(6 月 28 日 外務省)

●カナダ政府がベラルーシの高官 13 名と 2 団体に制裁導入

(6 月 27 日 カナダ首相府、BPN)

●ベラルーシの人権状況に関する年次報告

アネ・マラン特別報告者は、第 50 回国連人権理事

会において要旨以下を報告した。

・ベラルーシの人権状況は、依然として急激に悪化しており、国全体が恐怖と不法の雰囲気の中に沈んでいる。
・市民的・政治的権利を制限する法制度を体系的に厳格化する政策が採られている。

(6 月 29 日 BPN)

【内政】

●国家保安委員会(KGB)は、テロ行為に関与した人物一覧に 23 人を追加

セルゲイ・チハノフスキー(2020 年の大統領選挙への立候補を目指していた YouTuber、スヴェトラナ・チハノフスカヤ民主勢力代表の夫)、イゴリ・ロシク(米国系メディア「ラジオ・スヴァボダ(RFE/RL)」記者)も含まれている。

(6 月 27 日 国家保安委員会(KGB))

●反体制活動家アントン・モトリコ氏の母親宅に家宅搜索

・モトリコ氏は 2020 年 7 月に迫害を懸念して出国。

(6 月 28 日 BPN)

●ウクライナから避難してきた子どものための行事を巡る動き

・6 月 27 日、ゴメリ市で、ウクライナから避難してきた子どものための行事が開催されたが、警察により解散させられる。

・6 月 29 日、主催者のボランティアであるアッラ・コロレンコ氏らが逮捕される。

(6 月 29 日 人権団体「ヴァスナ(春)」、BPN)

●7 月 1 日から、COVID-19 ワクチン接種者台帳自動情報システム(EAIS)が本格運用を開始

・COVID-19 ワクチン接種者台帳自動情報(EAIS)は、モバイル・アプリケーション「COVID-19 なしで旅する(Путешествую без COVID-19)」を使用してユーラシア経済同盟(EAEU)域内を移動する自然人に対するサービスを提供することを目的とするもの。

・同システムには、①ワクチン接種者の個人情報、②1 回目の接種に関する情報、③接種を担当した医療

従事者の情報が記載される。追加接種を受けると、その情報が追加される。

・ベラルーシ国内では、いわゆるワクチンパスポートの提示は要求されていない。

(7月1日 国立電子サービスセンター(NTsEU))

【経済】

●外貨建て国債のベラルーシ・ルーブル(BYN)での償還の決定

(1)閣僚会議(政府)・国立銀行(中央銀行)共同決定 第413/15号

・6月28日、財務省と国立銀行(中央銀行)は、国外の金融市場において発行した有価証券に関する債務の償還が、支払日の国立銀行公定レートにより、ベラルーシ・ルーブル(BYN)建てで行われる旨発表。

(2)6月29日ベラルーシ財務省発表

・ユーロ債「Belarus-2027」の次回支払い分総額2,290万ドルをBYN建てで行う。

・2022年2月、財務省によりユーロ債の支払いが行われているものの、ベラルーシのユーロ債の所有者はその支払いを全くまたは部分的にしか受け取っていない。そのことに関し、ベラルーシ財務省は真相究明を試みたものの、「Citibank N.A.ロンドン支部」から十分な説明がなされていない。

(3)セリヴェルストフ財務大臣は、外貨建て国債の償還に関し、要旨以下の新しいスキームを提案

・従来の外貨建て国債と引き換えに新たなベラルーシ・ルーブル建て国債を発行する。

・または、ベラルーシ側が満期前の外貨建て国債を割引価格で買い戻す。

(6月29日 法律ポータル(我が国でいうインターネット官報に相当)、6月29日 ベラルーシ財務省、国营ベルタ通信)

●運輸・交通省は近隣欧州諸国との旅客鉄道の運行再開に関心

(1)6月27日、運輸・交通省の要旨以下を発表。

・旅客鉄道の運行が停止されたのはCOVID-19感染拡大防止のためであったが、現在は感染状況が落ち着いてきている。

・これを踏まえベラルーシ側から国際旅客鉄道の運行再開を何度も提案しているが成果に至っていない。

・ビリニュス・リガ・ワルシャワには、ミンスクから毎日バスが運行されており、利用者の増加が見られている。

・本年4月から導入されたリトアニア・ラトビア両国民に対する査証免除制度を利用して、既に88,000人がベラルーシを訪問している。このことは、近隣の欧州連合(EU)諸国の国民にも、ベラルーシ発着便の大きな需要があることを物語っている。

(2)6月30日、リトアニア鉄道は、本年及び来年は、ベラルーシとの旅客鉄道の運行を再開する予定はない旨発表。

(6月27日 運輸・交通省、6月30日 Delfi)

●「非友好国」からの食料品輸入禁止が年内いっぱいまで延長(6月27日付閣僚会議(政府)決定第412号)

りんご、あんず、さくらんぼ、桃、プラム等は除外。

(6月29日 法律ポータル(我が国でいうインターネット官報に相当))

●ベラルーシは国際原子力機関(IAEA)に、使用済み核燃料と放射性廃棄物の取り扱いに関する報告書を提出

(6月29日 エネルギー省)

【その他】

●7月1日、35か国のスポーツ担当大臣が、国際スポーツ大会からベラルーシ・ロシア両国の選手の排除を訴え

提唱したのは、ブルガリア、ハンガリーを除く欧州連合(EU)25か国と、アイスランド、英国、ノルウェー、リヒテンシュタイン、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、日本、韓国。

(7月2日 BPN)

(了)